

## 5. 小規模養豚場における繁殖成績改善の取組み

宇佐家畜保健衛生所

○井上峻一

### 【はじめに】

当家畜保健衛生所（以下家保）では、小規模養豚場への経営支援を目的に、超音波画像診断装置（以下エコー）を用いた妊娠鑑定を実施している。今回、当家保で作成した繁殖管理台帳を活用している農場において繁殖成績の悪化が認められた事から、問題点の分析と台帳の更新及び頻回指導の結果、繁殖成績の改善等一定の成果が得られたのでその概要を報告する。

### 【農場概要】

家族経営（畜主・妻・兄の3人）で母豚80頭規模の黒・白混合一貫経営。交配方法は自然交配（75%）と人工授精（25%）を併用。

2014年以前、家保が畜主の指定した授精後24日を経過した母豚に対して、エコーによる妊娠鑑定で不受胎豚の摘発を実施。

2014年以降、家保で作成した繁殖管理台帳（表計算ソフト Microsoft Excel）の活用を開始。繁殖診断時に対象豚の抽出を容易にした。また、産歴構成等の母豚管理データや農場生産データの抽出等も自動化し、農場の交配作業時間が大幅に削減され、更に効率化。しかし、2015年6次産業化による黒豚の独自加工品の販売開始や、2018年からの肉豚を預かる預託肥育開始等により、農場作業時間が増加し飼養管理が煩雑になった。その結果2020年に繁殖成績が母豚あたりの分娩回数1.6回/年、産子数15.5頭/年と繁殖成績が悪化したため、繁殖成績改善の取組みを実施。

### 【今回の取組み(2021年～)】

- ① 繁殖管理の『見える化』: 管理台帳に表計算ソフトの特性を活かし、授精後日数によって色分けした母豚配置図をシートとして加え、繁殖管理上注意を要する母豚を容易に把握することができるよう改修を行った。これにより、日常の繁殖管理作業の効率化の他、家保が訪問した際に、円滑に管理状況の聞き取りや投薬等の指示を行うことが可能となった。
- ② 繁殖管理業務の『自立促進』: 廃豚やその交配等のデータを削除する機能を加えることで、家保の支援なしに畜主だけで永続的に使用可能な台帳となるよう改善を図った。

### 【成果及びまとめ】

繁殖管理台帳を改修することで、これまでの妊娠の有無を確認するのみの繁殖管理から、授精前後の状況を容易に把握することができる繁殖管理となり、母豚あたり分娩回数2.25回/年、産子数26.2頭/年と、これまでのA農場で最高値を記録。また、長期不受胎豚の非生産日数が減少したことによる飼料費・施設費の低減と、種豚更新の遅れによる損失が減少。今回自作した繁殖管理台帳は、オーダーメイドならではの利点があり、特に小規模農場では有用であると思われた。